

## 第9グループ IM 報告

日時 2024年2月10日(土) 16:00～19:30

会場 登別グランドホテル

講演 テーマ 「サステナブルな社会を目指して  
～アイヌ民族が先住民族として認められた意義に学ぶ」

講師 落合 研一 氏(北海道大学アイヌ先住民研究センター 准教授)

国際ロータリー第2510地区第9グループの今年度 IM が2月10日土曜日に登別グランドホテルを会場に登別 RC が主管して開催されました。

今年度は、松浦光紀ガバナーが方針としています DEI (DIVERSITY、EQUITY、INCLUSION) ～多様性、公平さ、インクルージョン～の視点と登別 RC 若木会長がクラブ方針に掲げる持続可能な社会を目指し地域に希望を生み出すクラブの活動を踏まえ「サステナブルな社会を目指して～アイヌ民族が先住民族として認められた意義に学ぶ～」をテーマに、北海道大学アイヌ先住民研究センター准教授の落合先生にご講演を頂きました。

落合先生に講演をお願いするにあたり公益財団法人アイヌ民族文化財団の池田様には大変ご尽力を頂きお世話になりました。

当初のテーマは、「北海道に身近にあるアイヌ文化から持続可能な社会を目指す活動を学ぶ」ことを趣旨として落合研一先生に講演のお願いをしました。

しかし落合先生からは、「アイヌ文化から持続可能な社会を学ぶ(自然に負荷をかけない生き方・思想)」は今のアイヌの人々にとっては偏見と捉えられ不快感を与えてしまうことがあるというアドバイスをいただき、「アイヌ民族が先住民族として認められた意義に学ぶ」を主題としてお話を伺うこととなりました。

当日は、松浦光紀ガバナーと拝田昇地

区幹事のご出席を賜り、地元からは小笠原春一登別市長をご来賓に迎え午後4時から開催いたしました。

第9グループの鈴木高士ガバナー補佐、そして川田弘教 IM 実行委員長の挨拶では、開催趣旨と出席の御礼を申し上げます。

ご来賓からは松浦ガバナーからご挨拶を賜り、田中作次元 RI 会長の功績を参考にお話しされ今後も女性会員が活躍するためには、もっと社会進出の機会を作らなければならない、DEI は続いていく、出村ガバナーエレクトも国際大会などで活躍し存在感を発揮しているとお話しされました。

小笠原登別市長からは登別温泉での開催そして西胆振地区におけるロータリーの奉仕活動の御礼の言葉を頂きました。また、登別はアイヌ文学の知里幸恵さん生誕の地ですので落合先生のお話を聞いて勉強したいとお話しされました。

講演の前段では、ウポポイなどで活躍されています高橋志保子さんのムックリ演奏と舞踊をご披露頂きました。高橋さんは民族共生象徴空間ウポポイができる前、白老のポロト湖畔にあった「白老ポロトコタン～アイヌ民族博物館」に30年以上勤務。現在はウポポイの伝統的コタンエリアで若いスタッフたちの指導をしながら、歌や踊りを披露しています。明るい笑顔と歌声、そして楽しいお話しでお客様にも大人気です。

そして講演では、落合先生は先住民法学、憲法学が専門でありますので、その内容は人種と民族の違いや国民の定義に始まりアイヌ民族と和人との関係史、先住民族と少数民族の定義などお話し頂きました。

そのお話はとても分かり易く深く理解をすることができ、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

最後に松浦ガバナーから講評を頂きました。「ウポポイには来たことがあります、そして今日のおはなしを聞いて先住民族の問題は難しいと感じました。しかしその問題に私たちがお手伝いできるか考えていきたい。また、能登半島地震における災害義捐金のご協力ありがとうございました。皆様のおかげです。この場を借りて御礼申し上げます。」

その後、会場を移動して懇親会を開催しました。

最初にホストクラブ登別 RC 若木康夫会長からお礼の言葉があり、松浦ガバナーの乾杯のご発声で懇親会に入りました。アトラクションでは登別の郷土芸能「熊舞」が披露されました。

そして、次期第9グループガバナー補佐の室蘭東 RC 松永英樹会員をご紹介します。室蘭東 RC 森秀樹会長から次年度についてお話を頂きこの懇親会を締め切りました。最後に登別 RC 守屋聡会長エレクトから謝辞があり散会致しました。

